

平成28年度 学校自己評価システムシート（県立岩槻高等学校）

目指す学校像	確かな学力・規律ある生活態度・国際感覚を身につけた生徒を育成し、一人一人の進路希望を実現する、地域に愛される学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 一人一人を生かす学びの定着（学力の向上を目指して） 進路指導の充実（夢の実現を目指して） 生徒指導の充実と人権教育の推進（豊かな心の育成を目指して） 国際理解教育の推進（国際社会で活躍する生徒の育成を目指して） 保護者・地域との連携（信頼される学校を目指して）
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 1 2 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生徒は、朝学習に真面目に取り組んでいるが、十分な家庭学習時間を確保せず習慣化も乏しい。学力向上のため、主体的に学習する態度を身につけさせることが重要であり、また家庭学習の充実にも期待できる。	目標を持ち、主体的に学習する生徒を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> スタディサポートや学習リサーチの結果を分析し、生徒の個別指導に活かす。 課題考査を継続し、朝学習を充実させる。 公開授業を2回以上実施する。年間を通して教員相互による授業公開を実施する。 指導内容、到達目標の共通理解を深め、授業改善に取り組み。アンケート等により保護者・生徒から意見を聞く 	<ol style="list-style-type: none"> 成績不振生徒が前年比減少及び優良生徒が前年比増加したか。 表現力、読む力の育成等、朝学習内容の焦点化、充実に取り組めたか。 公開授業や教員相互の授業公開を適切に企画し、予定どおり実施できたか。 授業改善のため、研究が推進されたか。アンケートの活用が図られたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 成績優良生徒（前年比） 1年 49→36 2年 45→49 3年 50→41 成績不振生徒（前年比） 1年 16→13 2年 26→15 3年 13→25 授業公開は2回実施、年間を通して教員相互の授業公開を実施 生徒アンケートは教科で検討、保護者分も含め全体で共有 	A	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いて授業に臨んでいるが、受動的な姿勢も指導の余地がある。 スタディサポートの結果は面談資料に利用しているが更なる活用方法等の検討が必要である。 授業公開、授業評価を継続し授業改善に取り組みたい。 学力向上に向けて研究を開始し、家庭学習の習慣化を含めて方策をまとめる。
2	3年間を見通した指導により、進路意識は徐々に向上しているが、目標を高く持たせ、より難易度の高い大学等に挑戦することが望まれる。また、安易な進路選択や妥協する生徒がないよう、高い目標を維持する指導が必要である。	生徒が、より良い進路選択ができるよう、段階に応じて、キャリア教育の視点に立つ進路指導を充実させ、第一希望の実現を目指す。また、進学に必要な学力向上を図る。	<ol style="list-style-type: none"> 学年に応じ、職業・学部学科の研究を計画的に実施、進路情報提供に図書館を活用する。 進路講演会、模擬授業等実施し意識の向上を図り、併せて面談を通して目標を明確にし、難関大のチャレンジを促す。 必要な学習準備内容を把握させ、スケジュール指導を実施、計画的取組を促す。 	<ol style="list-style-type: none"> 引き続き1学年次から進路行事を適切な時期内容により、実施できたか。 進路意識の向上が図れたか、面談の時期を含め効果的に実施できたか。 学習の継続が図られたか。進学講習への参加者、模擬試験受験者、セク試験受験者は増えたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 1年職業調べから進路設計に向けて学年毎に体系的に実施。図書館は、3年生向け進路コーナーを設置。彩の国「ブリカトル」に生徒参加 生徒の進路意識の向上、計画実施は不十分。担任はきめ細かい面談を実施。高大接続の研究を開始、情報共有を図っている。 セク試験受験者 91→84 進学講習受講者 310→350 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識は向上した、3年次2学期以降のモチベーション維持、と高い目標設定を目指す。 高大接続の研究をもとに教育課程の改善との関連を見極める。 一般受験のメリットを周知し機会を広げる。また、模試の分析会等を企画する。 図書館との連携を継続、進路指導向け資料提供する。
3	生徒指導部が中心となり、全学年統一した指導が図られ、遅刻・欠席者は少ないが、個別に指導の必要なケースもある。また、多様な経験を持つ生徒に関係分掌・学年等が連携して対応できる体制を強化することが必要である。	整容指導、挨拶の励行、時間を守る指導等をより一層充実させ、岩高生としての品格を向上させる。	<ol style="list-style-type: none"> 全教職員が共通認識のもと整容指導（制服の正しい着こなしと身だしなみ）を行う。 登校指導、下校指導を継続的に行う。スカート・ストライプ技法による安全教室を実施する。 教育相談や指導の必要な生徒について情報共有の場を多く設ける。 人権教育講演会と職員研修会を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 学年間で指導について共通意識で臨んでいるか。 遅刻者数、欠席者数が前年と比べて減ったか。また安全の向上が図られたか。 学年会や企画委員会等で情報を共有し、教育相談委と連携して、支援の必要な生徒の指導ができたか。 計画通り実施できたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 整容指導については、教員間で共通理解が図れている。学年集会を効果的に実施、意識向上を促している。 欠席者数 1528→1172(2学期) 遅刻者数 974→708(1・2学期) スカート・ストライプ技法講習を実施 事故件数も減少 学年、企画委、特別支委で情報共有指導に反映。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の身だしなみや交通マナーも概ね落ち着き、地域からの指摘も殆どない。統一的指導により維持したい。 安定した高校生活のため、学校・家庭・機関・カプラーの連携を深め、綿密に分析ケースに応じた指導を目指す。 スカート・ストライプ技法、AED講習等、継続実施する。
4	今年度も海外授業体験学習への参加者を確保でき、体験学習を実施できる。今後、国際理解教育についてより充実発展させるためには、国際文化科内に留まらず学年単位、さらには全校での取組に高め発信していく必要がある。	国際文化科・各学年間での連携を強化するとともに、普通科への国際理解教育啓蒙を図り、全校での取組に高める。	<ol style="list-style-type: none"> 国際文化科の学科行事であるイングリッシュサマキヤ、異文化理解クイズ、歌舞伎講座などの運営支援をする。 海外授業体験、受け入れの成果を行事や授業に活かす。 学年行事として校内ビデオコンテストに取組む。 	<ol style="list-style-type: none"> 国際文化科と国際交流部で国際理解教育について連携が高まったか。講演内容の更なる充実が図られたか。 国際理解教育の取組や成果の発信、拡大ができたか。 計画実施が図られたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 行事は概ね予定通り実施、学校説明会で生徒発表、コンテスト応募が増え、グローバルラーを含め海外派遣6名。 海外体験授業はHPで同時報告、ウケ校の受入は学校全体で取組み式典を実施。 校内ビデオコンテストは未実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 海外授業体験等、募集に力を入れニーズを引き出す。手続きも含め丁寧な指導を進める。 訪日団の受け入れ等、全校での取組を目指し共通理解を深める。
5	行事を中心に多くの保護者に来校して頂き、PTA活動との連携を深める必要がある。また、地域の行事にも積極的に参加し本校への評価も高い。今後は、さらなる学校外への情報発信、地域との連携を通して、期待により一層広げていく必要がある。	HPや学校通信等を活用した情報発信や地域行事への参加等を通して生徒や本校教育への理解評価を高め、生徒の自校への誇りを醸成する。	<ol style="list-style-type: none"> HPを定期的に更新する。 近隣の中学校等を積極的に訪問し情報提供をする。 生徒が地域の行事、ボランティア小高交流事業等に参加する。 PTA活動をより活性化し連携を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 定期的な更新ができたか。 訪問内容について工夫改善が図られたか。 昨年に比べ、参加者数が増えたか。 保護者の参加が増えたか。 	<ol style="list-style-type: none"> HP更新回数 210回 「岩高通信」を6回発行し近隣の小中学校へ配布。 岩槻祭等地域行事に、生徒会、吹奏楽、合唱、軽音、書道、アンケートが参加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本年導入の緊急メール配信は、登録の拡大を促し確立を目指す。 HPで行事を迅速に更新し、岩高教育の成果を発信する。 PTA活動との連携を密にし維持・発展を図る。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成29年1月24日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 個に合わせた親身な授業を行っている、生徒の表情も楽しそうである。生徒も、授業に真面目な態度で前向きに取り組んでおり好感が持てる。 近隣にこのような学校があるのはうれしい。 学習法や学習時間等についての質問を通して参加生徒との詳しい懇話もあり、高校生の気風の一部を理解した。懇話会での意見交換を踏まえ、学校としても、また学習時間が十分とは言えない認識であり、工夫をしたい。 個人に応じた進路指導をしている、社会に出てからの視点を持った進路指導が必要（例えば大学ならば中退率や実就職率も視野に）であり継続して欲しい。 その生徒にとっての進路選択は、数字だけでないことがわかる。 シート各項目での変化の数値については、さらに精査してより実態が反映されたものへ改善していくとよい。 授業見学を通して、教室の机等に乱れもなく、生徒の落ち着いた生活がわかった。また生徒と先生の呼称から、関係の良さも感じられた。 高校生活とスマホとの関係等、生徒との質疑の中で状況や雰囲気把握した。 スカート・ストライプ技法講習に地域から参加し、印象的で来年も是非参加機会が欲しい。 ウィナム校の受け入れでは「ひな飾り」により日本文化を紹介でき、文化的な交流の大事さを実感した。 交流事業で一緒に授業を受けられたのはとてもよかった。 学校全体での取組、個人毎の意欲向上もあり来年は更なる活性化を期待したい。 ふれあいフェスタ2016でのボランティア参加非常によくやってくれた。初めての高校生受け入れであったが、戸惑いを払拭してくれた。 地域防災訓練にも多数の参加が見込まれており、大いに期待したい。 	